

## 第3章 うるま市の観光振興に向けた考え方

### 1. うるま市の観光の基本理念

- うるま市は、「サンゴ礁に囲まれた美しいまち」という意味をもっており、その言葉どおり、豊かな風景と自然環境に恵まれたまちです。東南部に広がる勝連半島の東方海上には、全長4.7kmの海中道路をはじめとして、有人、無人の8つの島々や海洋レジャーに適した海浜を有しており、東海岸特有の穏やかさを活かしたマリンスポーツが盛んに行われています。
- 歴史・文化では、平成12（2000）年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」に登録された世界遺産勝連城跡をはじめとして、県内随一の闘牛や各地域で特色を持つエイサー、獅子舞、ハーリー、肝高の阿麻和利など固有の風土に育まれた貴重な歴史文化がしっかりと受け継がれています。また、島しょ地域には、高台から眺める絶景や古民家が残る集落、沖縄の昔ながらの生活等、多種多様な地域資源を有しています。
- うるま市が観光客に選ばれ続ける、魅力ある観光地を形成するためには、うるま市の豊かな自然、素朴な風土、貴重な歴史・文化を、地域住民・観光関連団体及び行政が一体となって大切に保全、継承していくとともに、観光資源として活かすことで、うるま市らしい観光まちづくりに取り組んでいくことが重要です。
- そのためには、うるま市に住んでいる人々が、他の地域にはない自然、風土、歴史・文化を持っていることを知り、愛着と誇りを持つことが大切です。自分たちの地域を他の人に見てもらいたい、紹介したいという気持ちの高まりは、情報発信力の強さに繋がり、守り育てたい、もっと磨きたいという気持ちは、うるま市の魅力向上に繋がっていきます。
- これからの観光振興の方向性として、地域の活性化と持続的な観光の発展に向けて、地域の方々をはじめとする多様な関係者と連携して取り組んでいくとともに、うるま市の地域資源が持つ固有の特性を活かした様々な体験や滞在時間を提供していきます。そして、「住んでよし！自慢のまちをつくり、訪れてよし！自然・歴史・文化で感動を与え、受け入れてよし！明るくおもてなす～自慢のまちをつくり、感動を与える“うるま”～」の観光まちづくりを推進していきます。



## 2. うるま市の観光振興の基本方針

### 基本方針1 うるま市の統一イメージ形成

- うるま市の統一したイメージ形成に向けて、うるま市の中でも強みのある地域資源を核として、資源磨きと活用を図ることで「うるまブランドの確立」を目指します。
- これまで構築してきたホームページ、SNS等の各種メディアについて管理方法を見直すとともにコンセプトと誘客ターゲットを明確にした効果的な情報発信に取り組みます。
- ブランドの核となるうるま市の自然、文化などの地域資源の魅力向上を図ります。

### 基本方針2 美しい観光まちづくりと観光機能の充実

- うるま市の自然や景観、施設等の地域資源について、関係者と連携しながら保全や整備を進め観光機能を図ります。
- 多くの観光客が訪れる島しょ地域では地域住民の生活の妨げとならないよう観光地マネジメントの構築を図ります。
- 勝連城跡周辺、あやはし館・ロードパーク、石川IC周辺等の観光の拠点となる施設については公民連携を視野にさらなる魅力創出や機能強化を推進します。

### 基本方針3 地域の魅力を活用した観光消費拡大の仕掛けづくり

- 観光客のうるま市内の消費額を高めるために着地型体験プログラムや多様なツーリズムを展開し、セグメントごとの周遊観光を促進します。
- うるま市の課題である市内宿泊日数の延伸に向けては、既存宿泊施設との連携、新規宿泊施設の整備を推進します。
- イベント等を活用した更なる誘客促進を推進します。
- 一年を通じた観光の平準化を図るため、スポーツツーリズム及びワーケーションを推進します。

### 基本方針4 観光推進体制の構築とマーケティングの推進

- うるま市の観光振興を推進するにあたって行政、観光物産協会、観光関連事業者、関連団体との強固な推進体制を構築します。
- 東海岸地域や隣接する恩納村などの広域連携を図り、相互に補完しあう連携体制を構築します。
- うるま市の観光実態を把握するため継続的な基礎調査の実施と分析を推進します。
- 分析結果をもとに誘客ターゲットを明確化し、魅力ある多様な地域資源の効果的な情報発信に活用します。

### 基本方針5 受入体制整備とおもてなしの充実

- 外国人や高齢者、障がい者など多様な観光客の受け入れに向けた体制整備を図るとともに観光人材の育成・確保を推進します。
- 市内アクセスや市内周遊等の移動利便性の向上や市内観光関連施設の整備、観光危機管理体制を強固にし受入体制の充実を図ります。
- 市民が地域に誇りと愛着を持ち、おもてなしの心を醸成します。

### 3. 5年後（令和9（2027）年度）の目標値

- 本ビジョンは10年間の計画の改定版であることから、現行のビジョンに位置付けられている、数値目標の検証を行い、新たに令和5（2023）年度～令和9（2027）年度の「5年間の成長目標」を設定しました。
- 現行のビジョンに位置付けられていた7つの目標は県外客を対象とした目標設定（来訪割合、消費額、宿泊日数、満足度）が中心に設定されていました。
- 本ビジョンでは観光振興の基本となる①“経済”の視点に加え、②“観光客、③“社会（市民・事業者）”の観点で目指すべき目標値（KGI）を設定するとともに、後述する基本方針における重要業績指標（KPI）を位置づけています。

#### <目標値（KGI）>

区分	指標	現状値	数値目標 (5年後)	①目標設定の考え方 ②数値把握の方法
経済	指標1 主要観光施設の 入場者数	135,583人 (令和3年度)	550,000人	①上位計画である総合計画の目標値（令和2（2020）年度、令和8（2026）年度）の増加率を踏まえて設定 ②3施設の入込客数を基に算出
経済	指標2 一人あたり市内 観光消費額（県 外観光客）	土産：3,340円 飲食：5,354円 (令和4年度調 査)	土産：4,000円 飲食：6,000円	①土産代は、コロナ禍での長期滞在でもほとんど変動が無い（県統計）ことを踏まえ、現状値の1.2倍と設定 ①飲食費は、滞在型観光などで長期滞在することにより増加（県統計）を踏まえ、現行目標値の1.2倍と設定 ②従来通り、県外観光客でうるま市に来訪経験者を対象に、アンケート調査にて把握
観光客	指標3 うるま市観光の 満足度 (県外観光客)	土産：56.0% 飲食：70.0% (令和4年度調 査)	土産：66.5% 飲食：76.0%	①利用者の95%の満足度で設定。 ②従来通り、県外観光客でうるま市に来訪経験者を対象に、アンケート調査にて各費目の満足度を算出 ※本満足度には、「利用していない」の割合が含まれることから、「利用していない」の割合を外して満足度を再計算する方法も検討
社会	指標4 市民の幸福度	64.0% (令和4年度調 査)	74.0%	①市民アンケートの「とても思う」、「やや思う」の合算値を基準値とし、年2%の増加率をもって、5年後の目標値として設定 ②市民アンケート調査にて「観光が発展すると、あなたの生活も豊かになるか」を5段階評価で確認
社会	指標5 事業者の期待度	81.0% (令和4年度調 査)	86.0%	①事業者アンケートの「期待している」、「やや期待している」の合算値を基準値とし、年1%の増加率をもって、5年後の目標値として設定 ②事業者アンケート調査にて「うるま市の観光振興の取組の期待度」を5段階評価で確認

第3章 うるま市の観光振興に向けた考え方

<重要業績指標 (KPI) >

区分	指標	現状値	数値目標 (5年後)	①目標設定の考え方 ②数値把握の方法
方針 1	SNS フォロワー 数、市 YouTube の登録数	11,003 件 (令和5年2月)	23,000 件	①観光のプロモーションが高まると、認知率 も高まるため、市観光の部署及び観光物産 協会の SNS 等のフォロワー数、YouTube の登録数を設定 ②SNS 等の登録数を適宜把握
方針 2	リピーター率	74.0% (令和4年度調 査)	70.0%	①令和4(2022)年度は、直近3カ年の来 訪者を対象に実施。今後、コロナ禍より新 規での観光客の割合が増加する見込みで あり、リピーター率は減少することが想定 される。そのため、見直し年度の基準年よ り低下するものの、改定前の目標値 (70.0%)を据え置く ②従来通り、県外観光客でうるま市に来訪経 験者を対象に、アンケート調査にて把握す る
方針 3	プロスポーツ等 の誘致による経 済波及効果	27,128 千円 (令和元年)	65,108 千円	①総合計画、産業振興計画の成果目標値とし て位置づけ。それぞれの計画は令和8 (2026)年度までの期間であることか ら、一次曲線の割合で増加することで設定 ②総合計画、産業振興計画の調査結果を活用
方針 3	教育旅行数等の 誘致数	210 件 (令和元年)	216 件	①総合計画、産業振興計画の成果目標値とし て位置づけ。それぞれの計画は令和8 (2026)年度までの期間であることか ら、一次曲線の割合で増加することで設定 ②総合計画、産業振興計画の調査結果を活用
方針 3	宿泊日数	0.6 泊 (令和4年度調 査)	0.8 泊	①基準年から6年間に於いて調査年により 0.6泊~0.9泊の変動はあるものの1泊ま では増えていない。長期計画において旧庁 舎の跡地利用による宿泊施設の増加が見 込めるものの、本計画の目標値として5カ 年で0.2泊増を目指す ②従来通り、県外観光客でうるま市に来訪経 験者を対象に、アンケート調査にて把握す る
方針 4	来訪割合	42.2% (令和4年度調 査)	50.0%	①県外観光客を対象とし、累積値となること から、一定の増加割合を想定する。今後、 シティプロモーション等で首都圏の認知 度が高まった際に、新たな誘客、リピー ターの増加により、将来予測よりも増加が見 込まれることを考慮して設定 ②従来通り、県外観光客で沖縄県への来訪経 験者を対象に、アンケート調査にて把握す る。その際、うるま市のみならず、関連市 町村を把握することで、他都市との違いを 把握する